

第 17 回富士山世界文化遺産学術委員会における主な意見（10 月 25 日）

1 今夏の富士山の状況について（報告 1）

- ・アンケート調査において、新型コロナウイルス感染症の不安を感じることなく安心できたかの調査項目で、山小屋において「安心できた」「やや安心できた」の割合が 50%※に達していない。本年度の状況を踏まえ、次年度以降の新型コロナウイルス感染症対策を検討することが必要。

※集計結果は速報値のため、修正される場合があります。

2 富士宮口五合目来訪者施設の整備について（報告 2）

- ・環境省、文化庁は、積極的に関わっていただきたい。
- ・富士宮口五合目近くにある環境省のトイレ等、既存施設を含めた全体計画を検討いただきたい。

3 「富士山登山鉄道構想」の進捗状況について（報告 3）

- ・登山客を増やす目的の構想と捉えられないようにすべき。
- ・ユネスコにはH I Aの各段階で報告していくこと。

4. 経過観察指標に係る年次報告について（議事 1）

- ・指標については、適宜、見直すべきである。
- ・文化財未指定のものでも、富士山の文化的価値を証明しているものは、今後、これらを観察、保全していく必要がある。
- ・SDGs、学校教育といったユネスコとして重要な視点も指標に追加したらどうか。
- ・観察指標が想定していない、富士宮口五合目レストハウスの火災、登山鉄道構想な

どの大きな出来事は、特記事項等で記載したほうがよい。

5 包括的保存管理計画の改定について

(意見なし)

6 その他（コロナ禍の影響）

- ・コロナ禍での閉山により、富士山の自然環境や地元経済にどういった影響があったのか、データを収集・分析していただきたい。そのうえで少人数の検討会を作り、令和4年度以降の富士山の適切な来訪者数、道路、登山道の利用のあり方の検討と、計画の策定、実施体制を構築すべき。
- ・世界遺産委員会から指摘された課題へのこれまでの対応と結びつけることも重要である。
- ・コロナ禍の開山で、将来に活かせるようなデータを、報告書みたいな形でまとめていただきたい。
- ・今後、利用者負担制度の議論を前進させるためには地元の合意が必要であり、そのためにも、コロナ禍によって来訪者が激減したことによる経済的・環境的影響等の全体の統括は大切である。
- ・学術委員会が出された（上記の）意見への対応を、富士山世界文化遺産協議会等で審議いただきたい。